

第 54 回 長野市公共交通活性化・再生協議会 議事概要

1. 日 時 令和 6 年 5 月 31 日（金） 午後 2 時から午後 4 時
2. 場 所 長野市役所第一庁舎 5 階 庁議室
3. 出席者 委員 28 人、欠席 2 人、事務局職員 7 人
4. 次 第
 - 1 開会
 - 2 あいさつ
 - 3 協議事項
 - (1) 令和 5 年度協議会事業報告及び決算の承認について
 - (2) 長野市地域公共交通計画の一部変更について
 - (3) 地域公共交通計画に係る令和 6 年度実施計画（案）について
 - (4) 地域公共交通確保維持改善事業補助金について
 - (5) 長野市自転車活用推進計画について
 - (6) KURURU 取扱規則等の一部改正について
 - 4 その他
 - 5 閉 会

（議事概要）

報告事項

- (1) 令和 5 年度協議会事業報告及び決算の承認について
事務局から資料 1-1、1-2、1-3、1-4 を用いて説明⇒質疑等なし
一般会計及び事業会計の決算について承認
- (2) 長野市地域公共交通計画の一部変更について
事務局から資料 2-1、2-2、2-3 を用いて説明
[意見等]
○A 委員
利用率や収支率といった、以前作られた見直し基準に沿えば、お示しいただいた方法で中山間地域の住民の足を確保することについて異論はない。感染症流行前は、基準を満たしていた七二会地区でさえ、現状では基準値を満たすことができなくな

っている状況で、見直しはやむを得ないものと思う。

ただ、今後人口が減少していく中で、この（デマンド）システムですら、維持できなくなるのではないかと心配している。今後路線の再編について中間見直しを行うことになると思うが、その際は収支率や利用率に関するデータを開示していただき、関係者で共有したうえで議論する場を設けてほしい。

○事務局

委員ご指摘のとおり、感染症の流行もあって、状況が大きく変化している。今後の見直しにあたっては、地域住民の意見を広く聞いたうえで、基準も含めて、方向を定めていきたいと考えている。

○B 委員

公共交通計画の一部変更についてホームページで意見を募集したところ、寄せられた意見が無かったとのことだが、きちんと住民に届いていたのか気になる。もっと住民の関心を集められるように、周知の方法に工夫が必要だと感じる。

○事務局

ホームページ上での意見募集という形は、ご指摘の通り多くの人に伝わりにくい部分があった。今後は直接各地区に赴いて住民の意見を聞くなどして、計画の見直しに生かしていきたい。

(3) 地域公共交通計画に係る令和6年度実施計画（案）について

事務局から資料3を用いて説明

[意見等]

○A 委員

バスの運転手の人手不足による減便が、公共交通サービスの水準の低下を招くことを懸念している。バスの減便によって生じた影響を具体的に知りたい。その後改善された点はあるのか、また悪化した点はあるのか。

○事務局

バスの運転手が不足する中、交通事業者では運転手の募集を進めているところだが、人手不足は全国的なもので、まだ不足している状況だ。そこで、運行事業者と市が連携して、バスの乗車体験会の周知をしている。これにより、体験会の参加者が増加したという声がある。体験会がすぐに運転手の採用につながるかということ、やはり難しい面があるが、こうした取り組みを今後の雇用につなげていければ、と考えている。また、運転手の労働環境を改善することも、離職を防ぐうえで重要と考えており、具体的には女性用トイレや更衣室の改修などにも力を入れている。今後も運行事業者と連携して、この問題に取り組んでいきたい。

○A 委員

人手不足が簡単には改善できない中で、バスのダイヤなど工夫されていることと思うが、どんな人が、いつ、どこまで利用しているのかなど、データに基づいた議論をしたい。利用者のデータがわかれば共有していただきたい。

また、バスの運行情報のオープンデータ化と Suica 機能を搭載したカードの導入についてだが、これらの組み合わせによって、経路の検索から運賃の決済まで一連の流れができることで利便性が向上し、公共交通がより一層身近なものになると感じるが、そういう認識でいいか。

○事務局

交通事業者と市で連携し、昨年度県から補助金を得て GTFS データを完備し、グーグルやナビタイムといった交通検索プラットフォームに情報を提供している。これによって目的地までの経路を検索すると、そこまでの運賃や到着時間、乗換案内などが正確に表示されるようになっているが、まだ周知が十分でない部分がある。また、バスが今どこにいるのか、という情報が確認できるように、新たにデジタルサイネージの導入を検討しており、利用しやすい公共交通のため、環境整備に力を入れていきたいと考えている。

○C 委員

運転手不足についてだが、労働環境の整備も大事だが、賃金を上げることも必要ではないかと思う。

バスの乗り方教室について 20 校で実施予定とのことだが、どうやって実施校を決めているのか。また、無料乗車券を配布しているが利用率が 1 割というのはもったいない。もっと使ってもらえるように、例えば社会見学で路線バスを使ってもらい、無料乗車券を活用してもらおうなど、工夫してはどうか。

○事務局

まず、バスの乗り方教室について、市内の小学校は 53 校あり、約半数の小学校で実施を予定している。希望を募ったうえで実施校を決定している。教室には事業者と長野市の職員が出向き、小学校にバスを乗り入れて、小学生に実際にバスに乗り降りしてもらう形をとっている。人手不足により、運転手の手配が難しくなっていることから、今後はバスを使用しない形で教室を実施することも考えていきたい。バスの無料チケットについては、もっと自由に使えるようにするなど工夫をしていきたいと考えている。

運転手の賃金についてだが、人手不足は交通事業者に限らず、様々な分野でも同じ問題が起きている。市としては、まずは交通事業者が体制を整えるための支援をするとともに、行政の支援がなくても事業が継続できるような体制を、事業者とともに考えていきたい。

(4) 地域公共交通確保維持改善事業補助金について

事務局から資料 4-1、4-2、4-3、4-4 を用いて説明

[意見等]

○D 委員

資料 4-4、2 のカッコ 1、事業の目標欄について、補助対象継続と見込まれているものについて利用者数の掲載はあるが、収支、公的負債額の記載がない。補助要綱ではこれらの記載が必要となるが、記載のない理由を教えてください。

○事務局

ご指摘いただいた未記載の項目については、昨年の決算額をもとに精査を進めているところで、申請時には記載する予定。

○A 委員

資料 4-3、高府線（善光寺大門～初引）について、3 のカッコ 1 で、現状値が 14.4 と記載されているが、間違いはないか。要綱上は 15 から 150 だったと思う。

○E 委員

再度確認する。

○F 委員

事業者によって、自治体負担が異なるのはなぜか。

○G 委員

路線の沿線自治体と事業者間で協議をし、負担をいただいているという経緯がある。

○E 委員

協議会での詳細な経緯は把握していないが、高府線以外は長野市内を走る路線であり、今後協議できればと考えている。

○事務局

長野市ではバスの路線網を維持するため、事業者と協議をしたうえで対象路線を選定し、廃止路線代替バスとして補助してきた経緯がある。アルピコ交通を例に挙げると、犀北団地線や大豆島保科温泉線などが、該当する。

(5) 長野市自転車活用推進計画について

事務局から資料 5-1、5-2 を用いて説明

[意見等]

○F 委員

自分の印象だが、自転車使用時のヘルメット着用率が低いように感じる。着用を促すような対策が必要ではないかと思う。

○事務局

長野市では地域活動支援課が 1 月から 3 月までヘルメットの購入補助をしており、

多くの申請があったと聞いている。そのため今年度は4月から来年2月まで、申請を受け付けることとなった。補助対象となる場合はぜひ利用していただきたい。ヘルメットの着用率だが、5月に行った実地調査では28%と、昨年の16%に比べればやや増えてきているが、まだ十分ではない。引き続き広報啓発等を実施し、着用率の増加に努めていきたい。

○F 委員

レンタサイクルを利用する観光客のヘルメット着用をどうするか、自転車を貸す側は考えてほしい。

○A 委員

資料5-1、8ページに、主要なバス停周辺における駐輪場整備に向けた検討と書かれているが、具体的に整備が進んでいる所はあるのか。

○事務局

自転車は丹波島橋南をメインに整備をしているが、今後は自転車に限らず自動車についても広域拠点のような場所を作り、そこをベースにバスが発着できるような環境整備に力を入れていきたいと考えている。ただ、そうした拠点を市街地に設ける場合、土地の確保が難しいという課題がある。そうした課題をクリアしながら、整備を進めていきたいと考えている。

(6) KURURU 取扱規則等の一部改正について

事務局から資料6-1、6-2、6-3、6-4、6-5、6-6、6-7を用いて説明⇒質疑等なし
規則の改正について承認